言語文化教育研究学会　第 12 回年次大会プログラム

色と　色のプログラムはハイブリッド形式，　色のプログラムは対面のみです。
　色は発表者がオンライン，　色は発表者が対面，いずれも参加者は対面・オンライン両方で参加可能で，会場では Zoom 配信します。

一日目：2026 年 3 月 7 日（土）

9:45-10:00	開会式（対面・オンラインハイブリッド形式）
10:00-12:00	大会シンポジウム「言葉するわたしたち」（対面・オンラインハイブリッド形式）
N209	
シンポジスト：John C. Maher，国際基督教大学（ICU）名誉教授／八巻香澄，東京都現代美術館／石田喜美，横浜国立大学 司会：山本冴里，山口大学	
12:00-13:00	昼休み
12:10-12:50	言葉するわたしたち―この先への対話編（シンポジウム登壇者と参加者との対話の場） N 館ロビー

13:00-15:15　口頭発表 30 分／40 分（発表者対面／発表者オンライン）

司会：	司会：	司会：	司会：	司会：
N302	P301	P302	P304	P305（発表時間 40 分）
13:00-13:30 CEFR 黎明期の英国における外国語教育と中央集権化―マイケル・バイラムの語りにみる言語意識の再考 （寺村優里，京都大学大学院）	13:00-13:30 留学生の日本語学習に対するモチベーションと日本語授業のコースデザイン―元留学生の「語り」の分析から考える （森川結花，京都女子大学大学院）	13:00-13:30 共生社会を支える日本語支援の実践知―高等学校での実践者を対象とした PAC 分析による語りから （志賀玲子，武蔵野大学）	13:00-13:30 「移動する」日本語教師の「教えることの自己」を問う対話的省察の試み―新任一学期目を焦点化した協働的オートエスノグラフィー （小幡佳菜絵，北京大学／ストゥルーベ友紀，Columbia Basin College）	13:00-13:40 継承語を取り巻く社会状況の一考察―言語イデオロギーに注目して （太田真実，大阪大学）

13:35-14:05 査読システムから再考する「言語文化観のゆさぶり」―英語科教育が「ことばの教育」であるために （曽我治寿，岐阜県多治見市立多治見中学校）	13:35-14:05 「使うあてのない日本語学習」とキャリア形成―卒業 10 年後の語りを通じて （山内薫，江戸川大学）	13:35-14:05 外国人児童生徒の教育的包摂に向けた学習支援の実態と課題―福岡市内中学校での支援実践から見えた「見えない壁」 （李暁燕，九州大学／奥山光音，九州大学）	13:35-14:05 「理に適った配慮」から「包括的な授業実践」へ―困難を抱える留学生と日本語教員の双方からの視点に基づく試論 （佐藤淳子，北海道大学）	13:45-14:25 1970 年代の初級日本語教科書に見られる「若い」「先生」―なぜ「35 歳」の田中さんは正座で表象されたのか （吉井雄樹，関西学院大学大学院）
14:10-14:40 小学校の外国語（英語）授業を language assemblage から捉え直す試み （大石海，東京大学大学院）	14:10-14:40 母語で生きる日本在住中国人のライフストーリー研究―地域日本語教育の再考に向けて （張偉祺，関西大学大学院）	14:10-14:40 共生社会への気づきをもたらした経験―地域日本語教室で活動するボランティアのライフストーリー （瀬井陽子，広島大学大学院）	14:10-14:40 知的障害者の余暇概念をめぐる支援者の認識―2000 年代～2020 年代の『問題白書』より （大橋一輝，立命館大学大学院）	
14:45-15:15 大学が求める外国にルーツをもつ若者のアイデンティティと言語資源とは何か―大学入試要項の批判的談話研究から見えてくるもの （吉田孝子，国際基督教大学）	14:45-15:15 中国人日本語学習者のマルチモーダル文化に関する考察―意識に関するインタビュー調査より （柳東汶，大阪経済法科大学）	14:45-15:15 シティズンシップを涵養する対話鑑賞―オーストラリアの大学における実践を事例に （三代純平，武蔵野美術大学／三澤一実，武蔵野美術大学）	14:45-15:15 複言語話者のアイデンティティの「揺らぎ」―日系ブラジル人のナラティブに現れた翻訳できない言葉を手がかりに （岩坂泰子，同志社女子大学／藤田レア，在日外国人サポート／川辺純子，立命館守山中学校高等学校）	14:30-15:10 デンマークの国語教育実践に見る ICT 活用の思想的基盤―「四つのポジション」に着目して （山田深雪，玉川大学）
15:15-15:30		休憩		

15:30-17:45　口頭発表 30 分／40 分（発表者対面）				
N302	P301	P302	P304	P305（発表時間 40 分）
司会：	司会：	司会：	司会：	司会：
15:30-16:00 学術的メールライティングのための語用論指導とその在り方の再検討 （鈴木紅緒，宇都宮大学）	15:30-16:00 実践研究の成果はどのように還元されるか―現職者向け教師研修会の実践から （牛窪隆太，東洋大学／秋田美帆，岡山大学／末松大貴，名古屋学院大学）	15:30-16:00 「自分の名前で仕事をする」―非常勤日本語教師の語りにみるジェンダー的枠組みの受け流しと働く意味の再構築 （勝部三奈子，立命館大学）	15:30-16:00 日本語学習環境がライフキャリアに与える影響―ロシア語母語話者の少年期の経験の語りから （松尾恵理沙，東京国際大学・筑波大学大学院）	15:30-16:10 言語文化教育における対話実践の意義と課題 （細川英雄，言語文化教育研究所）
16:05-16:35 母語別で見る日本語学習者が使用するフィラー―中国語母語話者と英語母語話者を比較して （龍思好，大阪大学大学院）	16:05-16:35 リテラシー実践に影響する他者の存在―外国人住民の同行調査における語りから （神美妃，早稲田大学大学院）	16:05-16:35 育児休業から復帰した日本語教師のタイム・バインド解消のための戦略 （菅智穂，立命館大学／大河内瞳，桃山学院大学／杉本香，大阪大谷大学）	16:05-16:35 カンボジア人日本語教師のキャリアへの意識―進学希望者に注目して （細井駿吾，東京国際大学）	16:15-16:55 わたし語わたし文化を育む俳句教育実践ートランスリンガルアイデンティティテキスト実践(TLIT）とブラジル移民俳句研究を背景として （白石佳和，松蔭大学／佐野愛子，立命館大学／松田真希子，東京都立大学）
16:40-17:10 「英語俳句×ものづくり」の実践研究―高専学生による工作教室の試み （鷲野亜紀，松江工業高等専門学校）	16:40-17:10 「短期海外研修」を通じた日本語教育支援の可能性―ベトナム地方大学の受入れ実態からの考察 （小西達也，早稲田大学大学院）	16:40-17:10 自主的な専門的学習ネットワークを継続させる要因 ―参加者ナラティブからの示唆 （荻田朋子，大阪経済法科大学／境潤子，筑波大学大学院／高橋佳奈子，アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター／平賀結花，上山学院日本語学校／山本もと子，信州大学）	16:40-17:10 助数詞の比喩的用法を通した言語文化教育の可能性―意味拡張の分析から教育実践へ （小松浩子，早稲田大学）	

17:15-17:45 日本語への気づきを促すプロジェクト学習―COIL を活用した課題発見の試み （手塚まゆ子，関西大学／ミックダニエル礼，アリゾナ州立大学）	17:15-17:45 「英語で学ぶ」学生は「何を学ぶ」のか― English-Medium Instruction 実施大学の教員へのインタビューをもとに （山田ゆかり，北海道大学大学院）			17:00-17:40 文字表記を活用したキャラクター表現の可能性 ―いわゆる〈異人〉のことばを中心に （住田哲郎，京都精華大学）
18:00-19:00	情報交換会 参加費 600 円（要事前申込）			

二日目：2026 年 3 月 8 日（日）

9:30-11:30　ポスター発表（対面のみ）　P401／P402／P403／P406		
9:30-10:30　P401		
1	2	3
「他人に興味を持てない」大学生が日本在住の外国人に関心を持った背景—インドネシアへの留学は佐藤さんに何をもたらしたのか （末松大貴，名古屋学院大学）	日常生活の中でのメタ言語意識の形成プロセス—多言語に育ち、多言語を学んだ A 氏のライフストーリーを通して （李思雨，東京大学大学院）	「生涯にわたる自己形成の起点」としての外国語学習—高校で中国語を専門に学んだ学習者のライフストーリー・インタビューから （植村麻紀子，神田外語大学）
9:30-10:30　P402		
4	5	6
「日本人のような日本語」を目指したのはなぜなのか—2 名の在日中国人留学生のケーススタディ分析を通して （鄭若男，広島大学）	二者間対話と仲介型対話における「前提」の再構成—接触場面で失敗感を抱えた日本語学習者の事例から （韋夢瑶，早稲田大学大学院）	継承日本語話者の語りにみる日本語の位置づけとその変化—言語ポートレートと TEM を用いた分析を通して （日出眞子，立命館大学大学院）
9:30-10:30　P403		
7	8	9
芸術系大学院（元）留学生のキャリア形成とその支援の課題—彼／彼女たちのメディエーションの観点から （松本明香，東京立正短期大学／佐藤正則，山野美容芸術短期大学）	アスリート留学生の言語使用—現役アスリート留学生への半構造化インタビューから （中山由佳，山梨学院大学／藤原史織，山梨学院大学／影山陽子，昭和女子大学）	ことばと人と地域をつなぐ学び—大学 SALC における手話カフェの実践 （中井好男，大阪大学／瀬井陽子，大阪大学／石田唯，大阪大学）

9:30-10:30　P406		
10	11	12
介護現場における日常のディスコースから生まれる社会文化的評価—技能実習生が語る「自信」と日本人職員が語る「成長」を手がかりに （小川美香，筑波大学／勝部三奈子，立命館大学／大平幸，四国大学）	日本語指導が必要な児童生徒対象の「宿題教室」の実態把握—SCAT を用いた支援者の語りの分析 （古田梨乃，新潟大学／廣川智，新潟大学）	受け手から協働者へ—外国籍保護者とつくる学校説明会 （菅川裕希，比治山大学）

10:30-11:30　P401		
13	14	15
対話型コミュニケーション教材を用いたワークショップの実践－違和感を捉えなおし、多文化共修についてともに考える （玉尾文代，立命館大学／フィーナー万裕子，立命館大学／岡本絹子，立命館大学／粟飯原美智，佛教大学）	実践共同体における対話のツールとしてのパターン・ランゲージ—開発ファシリテーションの理念の明確化と改善に向けて （伊藤茉莉奈，東京経済大学／櫛田ひかる，早稲田大学／寺浦久仁香，武蔵野美術大学／仁野玲菜，早稲田大学）	多文化共生マインドを育む多角的アプローチ—「やさしい日本語」「第三者返答」から社会連携授業への展開 （大塚みさ，実践女子大学）

10:30-11:30　P402			
16	17	18	19
日本語教師の自己研修の場としての研究会の可能性—教師 A の語りにみる学びと実践のつながり （芹川佳子，東京大学）	日本語教師のキャリア発達における複言語・複文化能力の形成—複線径路等至性アプローチによる分析 （葉文彤，立命館大学大学院）	語り合いがひらく教員の動的なまなざし— 「内なる国際化」をめぐる省察から （尹惠彦，大阪経済法科大学／柳東汶，大阪経済法科大学／荻田朋子，大阪経済法科大学）	中堅日本語教師の研修経験における再意味づけの契機—研修生期とメンター期の語りの比較から （小坂凜，京都産業大学）

10:30-11:30　P403		
20	21	22
ウェルビーイングを軸とした非正規日本語教師の労働環境改善に向けて—北海道における大学と日本語学校の比較から （藤原安佐，札幌大学／久野弓枝，札幌大学）	認定日本語教育機関が掲げる理念から見えること （尾沼玄也，拓殖大学／加藤林太郎，神田外語大学）	日本語教育研究者を対象にしたパラダイム判定チャートの開発プロセス （香月裕介，神戸学院大学／伊藤翼斗，京都工芸繊維大学／大河内瞳，桃山学院大学）
10:30-11:30　P406		
23	24	25
物語を読むことの教育的可能性—授業実践と学生レポートの分析から （瀬尾悠希子，茨城大学／中山亜紀子，広島大学）	アイデンティティを尊重した日本語教育実践の実現に向けた教員研修の試み—子どもの行為主体性に着目して （米本和弘，東京学芸大学）	実践授業「偏見、差別、ことば」—差別を他人事にしない授業と教師を目指して （萩原秀樹，インターカルト日本語学校）

11:30-12:45 昼休み／委員会企画（対面のみ）	
P301	P305
11:40-12:30 ALCE Web マガジン「トガル」公開編集会議リターンズ （アーカイブズ運営委員会）	11:40-12:30 企画委員プチ体験 （企画委員会）

12:45-14:25　パネル発表（発表者対面）

N302	P301	P302	P304	P305
12:45-14:25 言語文化教育研究におけるアンチレイシズム―自らの立場から一歩踏み出すために （中家晶瑛，上智大学大学院／中原瑞公，大島商船高等専門学校）	12:45-14:25 〈生（なま・せい・いきる・うまれる）〉のことばと〈生〉でないことば （佐藤慎司，プリンストン大学／奥村三菜子，NPO 法人 YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち／川本健二，大連外国語大学）	12:45-14:25 就労分野における日本語教育の現状と課題―新制度の政策的課題と実践の視点から （村上智里，関西大学／Duong Van Binh，心越日本語学校／長山和夫，一般財団法人日本国際協力センター（JICE）／道上史絵，立命館大学）	12:45-14:25 トランスリンガル対話鑑賞が拓くことばの活動の未来 （松田真希子，東京都立大学／佐野愛子，立命館大学／三代純平，武蔵野美術大学／白石佳和，松蔭大学／三澤一実，武蔵野美術大学／María Alexandra Horvilleur Gomez，東京都立大学大学院）	12:45-14:25 対抗することばの模索―政治をめぐる言説が暴力性を増していくなかで （山本冴里，山口大学／岡本能里子，東京国際大学／有田佳代子，帝京大学）

14:45-16:20 口頭発表 40 分（発表者対面／発表者オンライン）

フォーラム 14:45-16:15（発表者対面）

N302	P301	P302	P304	P305
司会：	司会：	司会：		
14:45-15:25 女性母語話者日本語教師の海外での長期的キャリア構築 （岡野奈々，静岡文化芸術大学）	14:45-15:25 行動中心アプローチに基づく地域日本語教育実践の実態 （御舘久里恵，鳥取大学）	14:45-15:25 交換留学生の授業時間外における授業関連学習への適応―教育文化の違いに着目して （佐野真弓，関西学院大学／藤原由紀子，徳島大学）	14:45-16:15 仲介概念から日本語教師の社会的役割を考える （古屋憲章，帝京大学／舘岡洋子，早稲田大学／松本明香，東京立正短期大学／寺浦久仁香，武蔵野美術大学）	14:45-16:15 「社会的存在」についてともに考え、語ろう―「日本語教育の参照枠」の言語教育観を通して （佐野香織，武蔵野大学／伊澤明香，関西大学／嶋津百代，関西大学／坪根由香里，大阪観光大学／中谷潤子，大阪産業大学／杉本香，大阪大谷大学／中山英治，大阪産業大学／戸川朝子，南大阪国際語学学校／大河内瞳，桃山学院大学／川上尚恵，神戸大学）
15:30-16:20 日本語教師のキャリア形成における地方選択要因の分析―プッシュ・プル理論を援用した地方部日本語教育人材定着への示唆 （澤邉裕子，東北大学）	15:30-16:20 被災地の技能実習生は、震災の経験と日本語学習をどのように意味づけているか （市嶋典子，金沢大学）			